青年就農給付金／農業次世代人材投資資金を活用した先輩農業者のすがた（研修を受けて就農されたみなさん）
～北陸・東海・近畿地方～

【準備型】

営農類型 / 採択年度	米麦等	野菜等	果樹
令和2年（2020年）		兵庫県　塚本　慶彦 さん	和歌山県　中山　将誓 さん
令和元年（2019年）		沖縄県　平良　卓也 さん	福島県　宮﨑　遥 さん
平成30年（2018年）		千葉県　後藤　貴一 さん 神奈川県　本城　一貴 さん 滋賀県　佐生　和輝 さん	
平成29年（2017年）		宮城県　柳渕　泰孝 さん 栃木県　児矢野　翔吾 さん 静岡県　水見　翔人 さん 新潟県　鈴木　美香 さん 岐阜県　匿名希望 さん	
平成28年（2016年）		三重県　平松　香歩里 さん 佐賀県　中島　康太 さん 大分県　匿名希望 さん	岡山県　岡本　和正 さん
平成27年（2015年）		岩手県　吉田　祐一郎 さん 高知県　都築　廣和 さん	広島県　西森　恒平 さん
平成26年（2014年）	※秋田県　久保井　優司 さん	※秋田県　久保井　優司 さん	青森県　相馬　亘 さん 愛媛県　神野　哲彰・さやか さん
平成24年（2012年）		大阪府　川崎　佑子 さん	

※　複数の類型について研修

令和4年度作成

農業次世代人材投資資金（準備型）

新潟県

鈴木　美香 さん（３９歳）

研 修 先：先進農家

研修内容：野菜（いちご定植、栽培管理　等）

新規就農を志した経緯・背景

歯科衛生士として働いていたが帰りが遅く、家族との時間が持てないため辞めた。親戚の農家でいちご「越後姫」栽培の良さを見聞きするうちに興味を持ち、栽培してみたいと思うようになった。

いちご栽培は未経験だったが、地元JA部会の相談窓口や研修先が明確だったたことで、スムーズに先輩農業者の下で研修ができ、安心して就農することができた。

資金の活用例

生活費

（所得確保が難しい研修中の生活費に充てることができた）

研修中に工夫したポイント

- 研修時代から指導農家とともにいちご部会の指導会やハウス巡回等に参加し、栽培技術の習得に努めた。
- 普及指導センターの主催する農業簿記講習を受け、事前に経営管理の基礎を身につけた。
- 農地中間管理機構を活用して農地の賃借手続きを進めた。
- 研修後の速やかな営農に向けて、指導農家や関係機関・団体等の助言を得ながら、補助事業等の情報収集を行い、初期投資のかかるハウスの建設や資材の準備を行った。

今後の取組

- 経営安定化を図り、持続可能な農業を実現する。
- 新規就農者、新規栽培者が定着しやすい産地として後進の育成にも注力していく。
- 「越後姫」のブランド化を進め地域農業の活性化に貢献したい。

就農に向けた推移と今後

研修（H30.3～R1.9）

いちごの栽培管理、収穫、出荷調整等

- 平成30年3月に研修開始
- 資金や夫の収入で生計を維持。

就農準備（R1）

就農地を選定し、土入れ、整地を実施（18.9a）

- 農地中間管理機構を通し、農地賃借。
- 県等の支援により、青年等就農計画を作成。
- 補助事業の活用に向け情報収集。

現在（R4　就農４年目）

いちご（7.8a）

- 経営開始型に移行。資金を活用しながら良好な経営を維持している。
- 農福連携により労働力を確保し、効率的な経営を実践。

今後の目標（就農５年目以降）

いちご（7.8a）

- 今後も安定生産を目指し、収量・品質の維持に努める。
- 技術研鑽に励む。

令和4年度作成

岐阜県

農業次世代人材投資資金（準備型）

匿名希望 さん（４３歳）

研 修 先：下呂地域担い手育成総合支援協議会
研修内容：野菜（夏秋トマト栽培経営管理）

新規就農を志した経緯・背景

都会から下呂市へ移住することになり、豊かな自然の中で四季を感じながら暮らしていくには、農業が理想的な営みであると考えた。

未経験分野の仕事であったが、下呂市では就農に向け充実した支援を受けることができ、自分でもやっていけそうと判断した。

資金の活用例

- 研修期間中の生活費
- 就農に向けた運転資金

研修中に工夫したポイント

- 研修と並行して、農地・施設の確保を図り、2年間の研修後に、自営就農を果たした。
- 独立自営就農を見据えた実践的な研修を行い、指導者から産地に根付いた多くの栽培技術を学んだ。

今後の取組

１人での管理は難しい27aのハウスを、農福連携の取り組みで地域の社会福祉法人の労力を受け入れ、無理のない生産管理により、収益性を向上させる。

また、加工販売等6次化に取り組む。

就農に向けた推移と今後

研修（H２９～３０）

夏秋トマト栽培経営管理

- 平成２９年に研修開始
- 農業機械の運転免許取得
- 次世代資金で生計を維持

就農準備（H２９～３０）

研修と並行して、農地・施設の確保

- 農地中間管理機構を通じて農地賃借（５５ａ）
- 資金により農機等を購入

現在（就農４年目）

施設野菜（夏秋トマト）

- 27aのハウスで栽培
- 12aの農地を購入
- 順調に農業収入、所得を拡大

今後の目標（就農１０年後）

まず夏秋トマトの栽培に注力し、初期投資を完済したうえで、野菜の種類を増やし、加工販売等6次化に取り組む

令和4年度作成

農業次世代人材投資資金（準備型）

三重県

平松　香歩里 さん（４３歳）

研 修 先：農業大学校
研修内容：野菜（座学、栽培実習）

新規就農を志した経緯・背景

嫁いだ家が兼業農家だったため、農作業を手伝うことがあり、そこで農業の楽しさを知った。仕事で留守にしている間に、子どもがけがをしたことがきっかけで、家でできる仕事をしようと思い、ある程度時間の融通が効く農業を志した。

資金の活用例

農地の造成等

研修中に工夫したポイント

- 農業大学校では野菜を専攻し、イチゴの基本的な栽培管理方法、品質管理方法を学んだ。
- 農業大学校在学中から、県・市・JAに相談しながら、営農計画の策定やハウス建設の準備を進め、円滑に就農することができた。
- 先輩のイチゴ農家を訪れ、就農時や現状の経営の話を聞くとともに、実際に作業を体験させてもらったことで就農のイメージが具体的になった。

今後の取組

今年度より事業を活用し、有機質資材を用いて、減農薬・減化学肥料栽培を始めた。次年度以降もこの取組を継続し、取組面積拡大を目指す。

農村カフェ「Café FRAGARIA」の経営を安定させ、収穫がない時期の収入を確保する。

就農に向けた推移と今後

研修（H２８）

農業全般、施設野菜栽培

- 平成２８年度に農業大学校で研修
- 大型特殊やけん引の免許取得。
- イチゴ炭疽病でほぼ全滅し、病害虫管理・品種の重要性学ぶ。

就農準備（H２８）

農地の確保

- 義父の知り合いから農地を借入。
- ハウスの建設に向けて業者との調整。
- 青年等就農計画の認定。

現在（就農６年目）

イチゴ　１８a

- 令和元年に夫が参入し、夫婦で経営。
- 全量直接販売。
- イチゴシロップの販売、農村カフェの経営等、６次産業化にも取り組む。

今後の目標（就農１０年後）

イチゴ　１８a

- 減農薬・減化学肥料栽培の取組を拡大する。
- 農村カフェの経営安定。

令和4年度作成

農業次世代人材投資資金(準備型)

滋賀県

佐生　和輝 さん（３７歳）

研 修 先：農業大学校

研修内容：野菜（栽培管理、農業経営　等）

新規就農を志した経緯・背景

父親が兼業農家から農業一本へ転身したことをきっかけに、自分自身も野菜や花の収穫等を手伝うようになり、農作業の楽しさを感じていた。そんな中で、転職を考えたことを機に、本気で就農を考えるようになった。また、農業次世代投資資金準備型があることも背中を押してくれた。

資金の活用例

- 研修中の生活資金
- ハウスの建設、システムの構築資金
- 販路、設備等の調査費用

研修中に工夫したポイント

- 主品目（イチゴ）の栽培技術習得に加え、様々な品目の栽培技術習得について学んだ。
- イチゴ経営におけるコストや初期設備投資等について学び、就農計画の作成に着手できた。
- ハウス建設や少量土壌培地耕システムの構築について学ぶことができた。
- 卒業生の先輩農家にハウスの自家施工等について、アドバイスをもらった。

今後の取組

軌道に乗り始めた観光イチゴ園の経営をより充実させるために規模を拡大する。また、経営の合理化を図るため、法人化やスマート農業の実践を目指す。さらに、地域貢献という意味合いも込め、雇用を推進する。

就農に向けた推移と今後

研修（H30.4～H31.3）

少量土壌培地耕システムによるイチゴの栽培管理、農業経営に関する知識

- 平成30年4月に研修開始
- 大型特殊免許取得
- 準備型の資金や貯金で生活を維持

就農準備（H31.4～R1.7）

○農地確保
○ハウス建設、システム構築

- 農地中間管理機構から農地借入
- 業者と建設ハウスの調整
- ハウス建設費用の一部を準備型の資金を活用
- システム構築（自家施工）
- 青年等就農計画の認定

現在（就農4年目）

少量土壌培地耕システムによるイチゴ栽培
本圃ハウス6棟（2,820㎡）
育苗ハウス1棟（420㎡）

- 観光イチゴ園を中心とした消費者に顔の見える経営
- 10品種のイチゴを栽培
- 直売所完備

今後の目標（就農8年後）

- 規模拡大（増棟）し、より充実した観光イチゴ園を目指す
- 環境制御等におけるスマート農業の実践
- 法人化
- 雇用労働力の導入

令和4年度作成

農業次世代人材投資資金（準備型）

大阪府

川崎　佑子 さん（３９歳）

研 修 先：農業大学校
研修内容：野菜（主に病害虫）

新規就農を志した経緯・背景

- もともと教育関係で働いていました。食べること、体を動かすこと、ものを作ることが好きで、徐々に就農を考えるようになりました。
- 大阪府の農業大学校を卒業し、羽曳野市の農園で雇用就農した後に独立しました。子供でも野菜でも、私は『育てる』ことが好きで、今後、農業と教育を繋げていきたいと思っています。

資金の活用例

- 就農に向けた準備資金
- 研修期間中の生活費

研修中に工夫したポイント

- 病害虫について、テーマをもって研究に取り組み、発生メカニズムの理解や対策の検討を行いました。最終的には論文投稿をしました。
- 農業大学校から紹介を受けたインターン先に毎週末通い、指導を受けながら農作業の実践経験を積みました。
- 東京で開催された農業経営講座への参加や、大型特殊免許、土壌医検定等の資格取得などにすすんで取り組んでいました。
- 関係機関と相談を重ねて、農地取得や認定の取得方法、事業活用など就農準備に向けた情報収集をしていました。

今後の取組

- 現在取り組んでいる体験イベントの回数や来客数をさらに増やして農を通じたイベントによる売上の拡大を目指す。
- 高品質化、単収の増加により、いちじくを主力品目として確立する。
- 子供向けの農業塾を開催し、農の魅力を子供へ伝える。

就農に向けた推移と今後

研修（平成２４～２６年）

- 農業大学校
- 露地野菜の栽培管理
- 病害虫対策の基礎学習およびテーマを持っての研究
- 大型特殊免許取得
- 農業技術検定や土壌医検定などの資格取得

雇用就農（平成２６年～令和元年）

- 研修先からの紹介で羽曳野市の農園に雇用就農
- いちじくと露地野菜の栽培技術の習得
- 農薬を使わない栽培技術の習得
- 地域の地主との繋がりができ、農地の貸借につながる

独立就農（令和元年～現在）

- 従業員1名を雇用
- いちじくと多品目の露地野菜を栽培
- 畑での料理教室やピザ作りなどの体験を実施（年間１０回程度）
- 援農ボランティアを年間２００名以上受け入れ

今後の目標（令和5年～）

- 生産量増加、品質向上により、いちじくを経営の核となる品目へ
- 子供向けの農業教室やレクリエーションイベント（収穫体験など）の通年開催、それに伴う売上の拡大

令和4年度作成

農業次世代人材投資資金（準備型）

兵庫県

塚本　慶彦 さん（３５歳）

研 修 先：農業大学校
研修内容：野菜（実践研修、模擬販売研修）

新規就農を志した経緯・背景

観光農園のイチゴのおいしさが忘れられず、一念発起。地元民間企業に勤めていたが、脱サラし、県立農業大学校でイチゴの栽培技術や経営ノウハウについて研修

資金の活用例

研修中のイチゴ用資材購入等

研修中に工夫したポイント

- 本格研修を受ける前に県内外含めて多くのイチゴ農家を訪問、県インターンシップ事業も利用して、情報収集。
- 研修では、実践に近い規模で試行栽培が可能な県立農業大学校を選択し、収穫労力負荷などを実際に体験し分析。
- 無収入期間を避けるため、研修終了翌日に就農できるよう施設整備などの補助事業の活用時期を前倒し、研修中に就農ハウスの設置完了。
- 就農後は、イチゴ栽培以外にも積極的に地域と交流を行い、地元農家とのつながりを構築。

今後の取組

- 自社園地での直売と観光農園による経営の安定
- 地域の集落営農オペレーターとして、農地の保全管理への貢献
- キッチンカーによる自社イチゴスイーツ事業の展開

就農に向けた推移と今後

インタンシップ等（R1～R2）

インターンシップ研修
県内外のイチゴ農家訪問

- 栽培事例の情報を収集
- プランター等でイチゴを試作

実践研修（R2～R3）

県立農業大学校（実践研修）
イチゴハウス2棟で栽培

- 同期仲間と切磋琢磨
- 資金や研修中の売り上げにより、生活費を確保

現在（就農１年目）

施設園芸（イチゴ）（21a）
集落営農オペレーター

- R3から作付け開始
- 経営開始型に移行し、農業売上は一作換算で約1,500万円で順調に所得を確保

今後の目標（就農５年後）

安定経営を目指す

- 付加価値の向上のため、冷凍イチゴなどを使ってスイーツの商品化

令和4年度作成

農業次世代人材投資資金（準備型）

和歌山県

中山　将誓 さん（２８歳）

研 修 先：先進農家
研修内容：果樹（実践研修）

新規就農を志した経緯・背景

実家は柑橘、梅、スモモを栽培する果樹農家。地元の農協に勤務していたが、農業は自分が経営者として頑張れば成果を出せるという点に魅力を感じ、経営継承のため果樹の高品質栽培技術等の研修を1年間受講した。

資金の活用例

生活費として充当

研修中に工夫したポイント

- 地元関係機関で組織された「紀州田辺新規就農者育成協議会」を研修機関とすることで、地域の篤農家で柑橘、梅の高品質栽培について計画的に研修を受けられた。
- 最低、1日1つ質問することで、課題を持って研修に取り組んだ。
- 温州みかん及び梅の防除、剪定、みかん高糖度化のためのマルチ敷設など研修先で習得した優れた技術、手法はすぐに実家で実践した。
- 経営継承の準備として、研修中から実家の経営規模を拡大するとともに、園地を若返らせる為、計画的に改植を進めてきた。

今後の取組

- R4年9月青年等就農計画認定、R5年1月経営継承予定。
- 計画的改植を継続し園地を若返らせ、収量増に繋げる。
- R4年度に経営発展支援事業を活用してドライフルーツ製造施設を建設し、販売単価の向上と気候変動にも耐えられる安定した経営を目指す。

就農に向けた推移と今後

研修（R2～R3）

みかん、梅の防除、剪定等作業全般

- 令和２年８月に研修開始（１年間）
- 資金や農園バイト収入で生計維持

就農準備（R2～R3）

実家の規模拡大と計画的な改植（5ha→8ha）

- 実家園地若返りのため、計画的に改植を実施
- 離農する果樹農家の園地を引き受け、整備と改植を実施

現在（就農２年目）

親元就農
柑橘3.1ha、梅4.7ha、スモモ0.2ha

- 栽培全般の計画及び作業を担当
- ホームページを開設して https://www.nakayamafarm-ff.com　通販開始

今後の目標（就農６年後）

梅の老木園を柑橘に改植
柑橘3.7ha、梅4..1ha、スモモ0.2ha

- 令和５年１月経営継承
- 計画的な改植の効果による収量増及びドライフルーツの製造、販売により収益を増加させ、計画目標を達成する